Strategy Report

2016/08/23

チーフ・ストラテジスト 広木　隆

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

2016 年末の日経平均株価の予想

このブログで、フィボナッチ・リトレースメントについて書いた。Bloomberg はデフォルトで過去 1 年のチャートが表示されるので、日経平均の昨年 12 月高値の 2 万円から、今年の安値 1 万 5000 円割れまでの約 5 千円幅の下げに対する戻り率を示した。

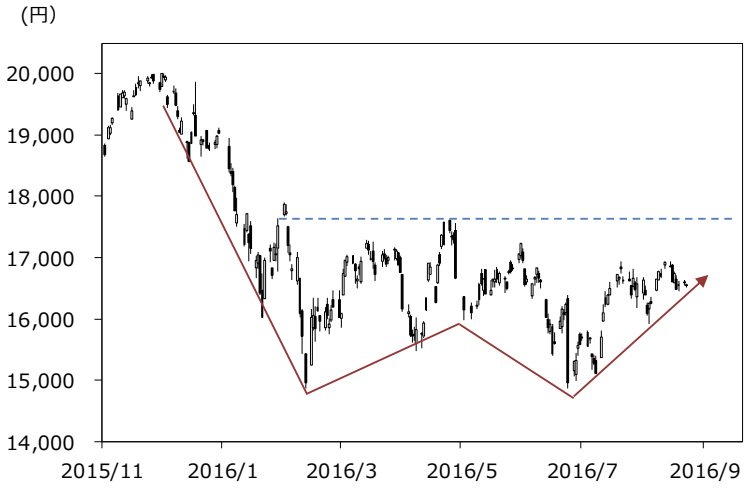
もうすこし期間を長くとって、昨年の高値（2 万 0952 円）、すなわちアベノミクス相場開始以来の高値からの下げ幅でみると、約 6 千円に対する戻りということになる。昨年高値を付けた日は 6 月 24 日。今年の安値、1 万 4864 円を付けた日は「BREXIT」の 6 月 24 日。高値⇒安値がちょうど丸一年である。きりがいいので、6 月 24 日の安値で大底確認としたいものだが、それには何が必要か。

まず目先は、届きそうで届かない 1 万 7000 円台の奪回。もうしばらくすると右肩下がりの 200 日移動平均が 1 万 7000 円近辺に垂れてくる。そのタイミングで 1 万 7000 円台に乗せれば 200 日移動平均抜けも同時に達成できる。

次のターゲットは昨年高値からの下げ幅、約 6 千円に対する 38.2%戻しの水準である 1 万 7189 円をクリアすることだ。そこまでくれば、4 月高値の 1 万 7613 円が視野に入る。そのネックラインを抜ければ W（ダブル）ボトムの完成だ。底入れ完了として買いの勢いにも弾みがつくだろう。

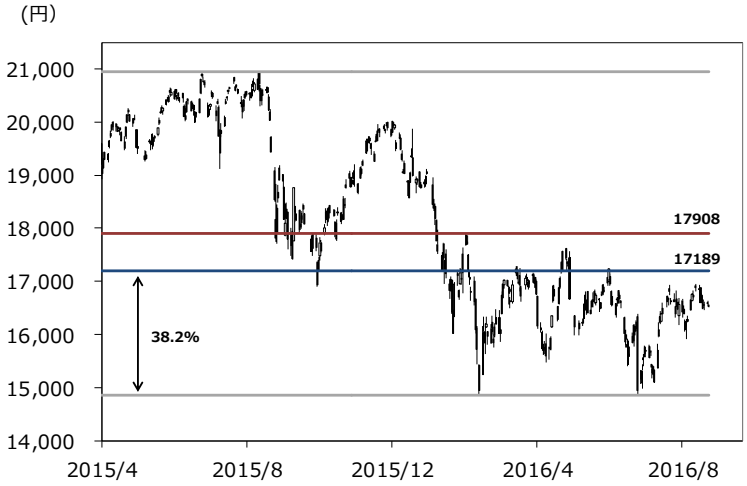
Copyright (C) 2016 Monex, Inc. All rights reserved

日経平均の推移（2015年11月～）



（出所）Bloombergよりマネックス証券作成

日経平均の推移（2015年4月～）



（出所）Bloombergよりマネックス証券作成

昨年高値から、すなわちアベノミクス相場開始以来の高値からの下げ幅に対する半値戻しが 1 万 7908 円。半値戻しを達成するその水準を今年の年末のターゲットとしたい。

現在、日経平均の予想 EPS は 1200 円。現在は PER14 倍程度（1200×14＝1 万 6800 円）だが、年末には PER の過去平均である 15 倍程度に戻ると思われる。

もう夏も終わりだが、年内残り 4 カ月の間に、日米の金融政策、米国大統領選など大きなイベントを巡る不透明要因が － 結果はともかく － 取り除かれるのは間違いない。相場にとっては、「わからないこと」がリスクだから、「わかってしまえば」リスクはなくなる。リスク要因の後退で PER が平均に回帰す

Copyright (C) 2016
Monex, Inc. All rights reserved.

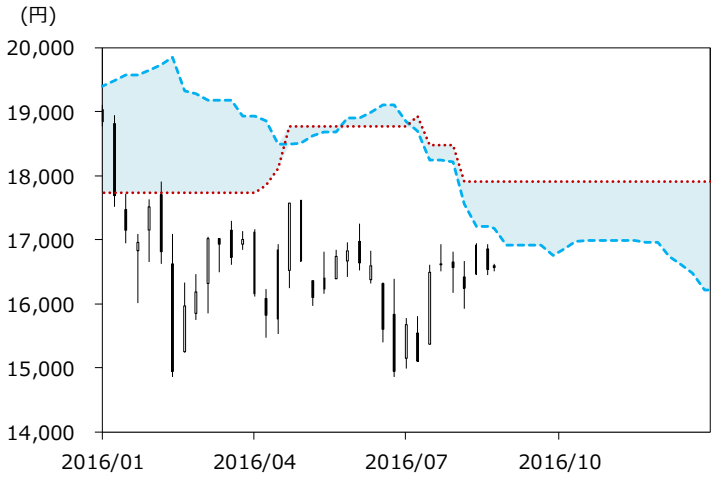
るというシナリオである。

問題は上述したそれぞれの節目を抜けるカタリスト。やはり日米の金融政策、米国大統領選といったイベントがマーケット・フレンドリーな結果に転がることだろう。米国は年内（おそらく 12 月）に利上げをし、日銀は 9 月の総括検証で穏当な追加緩和を打ち出し、そしてヒラリーが勝つ。

この条件がそろったならば、PER15 倍で日経平均 1 万 8000 円というのは、バリュエーション的に妥当で無理のない水準だと考える。

ちなみに日経平均の週足の一目均衡表を見ると、雲の上限は 1 万 7909 円。雲の上限、すなわち先行スパン 2 は、（過去 52 週間の高値＋過去 52 週間の安値）÷2 だから、上述の通り高値⇒安値がちょうど丸一年であれば、過去 52 週がちょうど過去一年に当たるため、先行スパン 2 が半値戻りの水準に一致する。日経平均 1 万 8000 円は、半値戻しと一目均衡表の雲の上抜けを同時に達成する水準だ。

日経平均 一目均衡表（週足、2016年～）



（出所）Bloombergよりマネックス証券作成

個人的に気に入っているのは「石庭のリズム」。5-2-3-2-3 に従って、5 千円の下げに対して、戻りが 2 千円、3 千円、2 千円と続いたあと、最後の戻りが 3 千円となる － というシナリオが美しいと思う。（詳しくはこちらをご参照ください）

Copyright (C) 2016
Monex, Inc. All rights reserved.

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではございません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではございません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではございません。
提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではございません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項
マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第165号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人　金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

Copyright (C) 2016
Monex, Inc. All rights reserved.